

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
黒川 浩美			
月2、3			
添付ファイル			

科目の概要	<p>生命の営みと健康の保持・増進のために適切な食物の摂取が必要である。人の一生における各ライフステージ、すなわち乳幼児期、学童・思春期、成人期、老年期には、それぞれのステージにあった栄養管理が必要である。応用栄養学では、ライフステージ別に身体の形態的・機能的特性を理解し、栄養状態や身体状況に適切な栄養マネジメントができることをめざす。本科目では、個人または集団の横断的または縦断的に把握した身体状況や食生活状況を評価する能力を養うための栄養マネジメントや栄養ケアの考え方を理解し、種類や方法について学ぶ。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） 栄養ケア・マネジメントを始めるにあたり ・推定エネルギー必要量の算出、食事バランスガイドが理解できている。</p> <p>第2回 食事摂取基準の基礎的理解 ・食事摂取基準の基本的な考え方について理解する。</p> <p>第3回 食事摂取基準活用の基礎理論 ・栄養摂取基準各指標の目的と種類について説明できる。</p> <p>第4回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準 ・エネルギー・栄養素別食事摂取基準について理解する。</p> <p>第5回 栄養ケア・マネジメント ・栄養管理の目的が説明できる。 ・栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。</p> <p>第6回 栄養アセスメント-1 ・栄養アセスメントの意義と目的を理解する。</p> <p>第7回 栄養アセスメント-2 ・栄養アセスメントの指標及び内容を理解する。</p> <p>第8回 栄養ケアマネジメント ・食事摂取基準活用の基礎理論</p> <p>第9回 栄養アセスメント① ・モデル患者のアセスメント、評価を行う（グループワーク）</p> <p>第10回 栄養アセスメント② ・モデル患者のフィードバックを作成する</p> <p>第11回 栄養アセスメント③ ・モデル患者のカンファレンスを行う</p> <p>第12回 成長・発達・加齢と変化 ・成長・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養について理解する。</p> <p>第13回 環境と栄養 ケース別（ストレス時・特殊環境下）の身体活動にともなう生理的な変化や栄養的特性と、それらに対する栄養管理について理解する。</p> <p>第14回 栄養ケアマネジメント、栄養アセスメント、栄養ケア計画のまとめ ・実際の栄養管理に適応できるように理解したことについてまとめる、確認する。</p> <p>第15回 日本人の食事摂取基準についてまとめ ・日本人の食事摂取基準、特徴について確認する。</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	<p>栄養マネジメントについて理解している。個人や集団の栄養状態の評価判定やリスク管理に必要な基本的な知識や能力を習得できている。 食事摂取基準の概念や考え方を理解し、管理栄養士として食事評価ができる実践力を身につけている。</p>
授業の方法	<p>【授業形態】 講義形式を主とする。適宜グループ等での活動を取り入れる。</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 第9回の授業において、モデル患者の訴えについて聞き取り、問題点の抽出を行い、今後の栄養ケア桜蘭についてディスカッションを行う。 第10回において、モデル患者に提示する栄養ケア計画を作成する。 第11回において作成したモデル患者への栄養ケア計画を発表する。</p>

	<p>【ICTを利用した双方向授業】 状況に応じてオンライン、オンデマンドで実施する。</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <p>【割合】 定期テスト60% 積極的授業参加20% 課題提出20%</p>
教科書・テキスト	<p>Visyal栄養学テキスト 応用栄養学 編集 小切間美保・栞原晶子 中山書店 日本人の食事摂取基準(2020年版)</p>
参考書	<p>授業中に紹介する</p>
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	<p>授業での課題は、提出期間内に必ず提出すること。</p>
履修上の留意事項	<p>課題、発表など積極的に参加すること。</p>
オフィスアワー	<p>水～金 15:00-17:00</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>Active Portalにて連絡する。</p>
実務経験	<p>管理栄養士</p>
その他	